（様式 10）

論 文 内 容 の 要 旨

研究科名	人間社会学　　研究科	専 攻 名	地域マネジメント　　専攻
学籍番号	1511D01	氏　　名	中村　容子
論文題目	大河ドラマ放映を活用した地域振興に関する研究		

要　　旨

１．研究の背景

1953 年 2 月 1 日に NHK がテレビ放送を開始した。テレビ放送開始当初は，ニュースや野球・大相撲のスポーツ中継を生放送で行っていた。1960 年代に，テレビはニュースと併せて，クイズ・ドラマといった娯楽番組を放送するようになった。そして，1963 年 4 月に 2017 年現在も続く大河ドラマ放映が始まった。

1963 年当初，NHK が大河ドラマを企画・放映した目的は，映画に負けないテレビ番組を作り，視聴者に番組を楽しんでもらうことであった。この結果，NHK の目論見通り，大河ドラマ第 1 作「花の生涯」（1963）は年間平均 20.2%の高視聴率を記録し，視聴者から反響を得た。また，番組内で映し出された滋賀県の彦根城には，例年を上回る観光客が訪れた。大河ドラマで取り上げられた舞台地に観光客が訪れるようになり，第 7 作「天と地と」（1969）放映時には，国鉄（現：JR）が大河ドラマの名を冠した団体旅行を催行した。このことから，大河ドラマが観光客の旅行地選択に影響を与えていることが分かる。とくに，第 25 作「独眼竜政宗」（1987）放映以降，舞台地となった自治体に観光客が急激に増加するようになり，自治体は例年にも増して観光広報活動を行い，誘客に取り組むようになった。

大河ドラマ舞台地の自治体では，番組で取り上げられる史跡や人物が再考され，美術館や博物館などでは，大河ドラマに関連した登場人物の特別展や企画展が催される。そして，自治体内では 1 年間を通じて大河ドラマに関連したイベントを催し，観光客の誘致を行う。しかし，これらは大河ドラマ放映年に限った誘客効果であることが多く，放映後は観光客が減少する一過性であることが多い。

放映後も大河ドラマの舞台地となった自治体に影響を与え続ける場合もある。大河ドラマ放映を契機に，沖縄県読谷村や岩手県奥州市江刺区のように，新たな観光施設が建設され，大河ドラマ放映後も継続的に活用されることで，観光客誘致の一助となる場合や，大河ドラマで映し出された伝統芸能が再認識されることによる伝統芸能の活発化や保存会の発足などがあげられる。

2000 年以降では，大河ドラマの登場人物が舞台地で再認識され，自治体で活用されることが増加した。また，舞台地となった金沢市，南魚沼市，指宿市，鹿児島市などで大河ドラマ放映決定を契機に，自治体によるボランティアガイドの育成が行われ，住民が観光客を迎え入れる活動が行われるようになった。この活動は，自治体住民の新たな交流の場となり，自治体内のコミュニティの再生・創造に寄与している。これだけでなく，大河ドラマで取り上げられた人物が学校教育に取り入れる自治体もみられる。また，東日本大震災で被災した自治体の復興支援のために，2013 年には大河ドラマが制作，放映された。

このように，大河ドラマ放映は時代とともに自治体の活動に変化をもたらしている。現在は，地域振興を推進し，大河ドラマで創出された自治体内での活動を一過性にしない試みがみられる。

（様式 10）

２．研究の目的

本論文の目的は，NHK 大河ドラマを活用した自治体の観光客誘致の取り組みが，地域の社会・経済・文化の発展に寄与した地域振興について明らかにすることである。

３．研究の方法

本論文の目的を達成するために，まず先行研究によって問題の所在を明らかにする。第 2 章で文献・資料を活用し，テレビが視聴者に与えた影響ならびにテレビの普及について分析を行う。また，大河ドラマの歴史と併せて各大河ドラマ作品の概要を述べる。さらに，大河ドラマ視聴率の変遷と多メディアの台頭および大河ドラマ放映の地域性と時代背景について分析を行う。大河ドラマの観光活用については，1963 年から 2013 年までの約 50 年間の変遷を分析するとともに，東日本大震災で被災した福島県会津若松市の復興支援を目的とした大河ドラマの制作についても論じる。

第 3 章から第 9 章までは、研究対象の大河ドラマ舞台地について分析を行う。

まず，第 3 章では，山梨県が舞台地の大河ドラマ「天と地と」（1969），「武田信玄」（1988），「風林火山」（2007）の 3 作品をあげ，各大河ドラマの観光活用の相違を分析し，どのような変化がみられるかを明らかにする。

第 4 章では，5 年間で 2 度大河ドラマの舞台地になった高知県高知市を事例とし，「功名が辻」（2006）と「龍馬伝」（2010）の観光効果の違いを明らかにする。

「龍馬伝」（2010）放映が高知市の観光におよぼした影響を把握するために，第 5 章では観光客に対するアンケート調査結果から，観光客の特性や高知市観光の評価・意見を分析する。第 6 章において，自治体住民としての高知大学の学生と，高知市の観光を学習している高知県立伊野商業高等学校国際観光科の生徒に対して，高知市観光のアンケート調査を実施し，両者の評価や意見を分析する。そして，観光客と住民の意識の相違点を明らかにする。

第 7 章は，大河ドラマ「炎立つ」（1993 後半）放映を契機に，新たな観光施設の建設や伝統芸能の保存・活用が活発化した岩手県江刺市（現：奥州市江刺区）の取り組みを明らかにする。

第 8 章では，大河ドラマ「篤姫」（2008）を契機に，地域コミュニティの再生や，学校教育における地域学習に効果をもたらした鹿児島県指宿市の地域振興の取り組みを明らかにする。

そして，第 9 章は東日本大震災の被災地復興支援を目的に放映された「八重の桜」（2013）をあげ，大河ドラマが福島県会津若松市におよぼした影響を明らかにする。

第 10 章では，第 3 章から第 9 章を総観し，大河ドラマを活用した地域振興の共通点と相違点を明らかにする。そして，第 11 章で結論を述べる。

なお，上述した自治体の他にも，地域振興の変遷および比較検討を行うため，「春日局」（1989）の埼玉県川越市，「琉球の風」（1993 前半）の沖縄県読谷村，「義経」（2005）の岩手県平泉町，「天地人」（2009）の新潟県南魚沼市の 4 ヵ所の舞台地を訪れ，文献・資料の収集および聞き取り調査を実施した。

４．研究の結果

大河ドラマは 1963 年放映開始当初，高視聴率を記録して国民の人気番組になった。その後も日本の世相を反映した作品が制作され，2017 年現在も NHK を代表する番組として放映されている。

大河ドラマを活用した観光では，舞台地を訪れる観光客と受け入れる自治体，とくに観光業者が主軸となっており，自治体の住民に対する影響は看過されていた。しかし，2000 年代に入ると自治体の観光業者だけでなく，住民が観光客を迎え入れるボランティアガイド活動が始まり，大河ドラマを活用した観光に変化がみられた。さらに，2013 年に放映された「八重の桜」

は，東日本大震災の被災地である福島県の支援のために制作され，大河ドラマは被災地の復興に寄与した。

このように現在の大河ドラマは，視聴の枠を超え，舞台地の観光客誘致に寄与するとともに，住民に多様な活動の場を提供している。

大河ドラマを活用した観光振興の事例として，山梨県と高知市をあげた。山梨県では，高度経済成長期に「天と地と」（1969），バブル経済期に「武田信玄」（1988），平成不況と呼ばれる時代に「風林火山」（2007）が放映された。19 年間隔の時代背景が異なるなか大河ドラマ 3 作品が放映され，いずれの作品においても主人公の武田信玄が観光活用された。そして，大河ドラマの作品内容の違いや当時の社会情勢を反映して，個々に異なる観光活用が行われた。

高知市は，「功名が辻」（2006）と「龍馬伝」（2010）の 5 年間に 2 つの大河ドラマの舞台地となった。しかし，両大河ドラマで誘客数と行政の取り組みに違いが表れた。「功名が辻」は土佐藩主山内一豊，「龍馬伝」は坂本龍馬がそれぞれ主人公であり，両者に関連した博覧会・イベントが高知県主催で開催された。「功名が辻」の場合，観光客数の増加は一時的なもので継続性はなかった。一方，「龍馬伝」は放映前年から観光客数が徐々に増加し，放映後も観光客の増加が続いた。この要因として，博覧会を催した高知県が 2006 年の反省をふまえた取り組みを行い，放映後も坂本龍馬に関連した博覧会を催し，継続して県や市が観光客誘致を行ったことで，高知市の観光誘客に一定の効果があった。

大河ドラマ「龍馬伝」放映年次に筆者が実施したアンケート調査結果によると，「龍馬伝」の放映を機に，高知市を訪れた観光客は全体の 47%であった。このことから，大河ドラマ放映の影響により観光客が旅行目的地を選択することが分かった。しかし，同市の訪問回数が多くなるほど，大河ドラマ放映が旅行地選択における影響が少なくなることも明らかになった。また，大河ドラマ放映を契機に高知市を訪れた観光客が約半数を占めたが，聞き取り調査の結果，観光客は大河ドラマ関連以外の観光施設等にも興味があったことが分かった。

大河ドラマを活用して地域振興を行った事例として，岩手県江刺市（現：奥州市江刺区），鹿児島県指宿市，そして福島県会津若松市をあげた。

まず，江刺市は 1990 年代前半に地域活性化の取り組みを開始し，当初の試みは江刺市出身の藤原清衡を活用した運動であった。この活動は地方新聞に取り上げられ，大河ドラマロケ地誘致の発端となった。当時の NHK は，大河ドラマの舞台地と地域との関わりが一時的なものであることに鑑みて，長期的に貢献できる施設を作ることを計画し，歴史公園「えさし藤原の郷」を整備して，持続的な観光客誘致に寄与しようとした。

また，大河ドラマ「炎立つ」（1993）は，地域住民の意識変化に大きな役割を果たした。放映前まで住民の中には，奥州藤原氏に対して良い意識を持っておらず，罵倒する人もいた。しかし，大河ドラマ放映により，奥州藤原氏に対する意識が良い方へ変化したことが明らかとなり，大河ドラマ放映が地域住民の意識変化に影響を与えることが分かった。

次に指宿市では、「篤姫」（2008）放映の決定後，篤姫を観光客誘致に活用することが計画され，篤姫関連史跡の整備を行った。また，篤姫関連史跡を説明するボランティアガイドの育成を開始し，観光客を迎え入れる体制を整えた。

「篤姫」放映中には，指宿市の想定以上の観光客が訪れた。このため，1 年で活動を停止する予定であったボランティアガイドの継続が決まった。現在も，ボランティアガイドは内容を変化させながら活動を継続している。加えて，「篤姫」放映後，指宿市内の小学校では，篤姫を歴史上の人物として学習する時間が設けられた。このように指宿市では，2008 年の大河ドラマ「篤姫」放映を契機に始めた観光振興が，地域住民の交流を促し地域振興につながった。

さらに，上記のような地域振興のほかに，東日本大震災の被災地となった福島県を支援する目的で，「八重の桜」（2013）の放映が決定した。この結果，大河ドラマ放映年には，観光客誘

致に一定の効果が表れた。放映後は，継続的な活動に繋がらなかったが，新たに大河ドラマの主人公である新島八重が同市の観光資源になった。なお，同大河ドラマ放映は，被災地の住民に好印象を与えた。

大河ドラマを契機に舞台地となった自治体では，大河ドラマ放映が開始して間もない 1969 年から地域の観光資源が整備されるようになった。とくに，ロケ地の建設や大河ドラマに登場する人物像の建立，観光施設等の整備が多い。

また，舞台地になった自治体の活動期間を分類した結果，5 年未満の短期に留まった活動は自治体主体であることが多く，しかも大河ドラマ放映年前後に限定した観光客向けのイベントであり，一時的な観光客増加や地域経済の効果である。

一方，5 年以上継続している長期活動は，自治体主体で行われることは少なく，住民が積極的に参加していることが共通点としてあげられる。これらは観光客の受け入れ活動のみならず，自治体のコミュニティの創造や再生，歴史上の人物の再認識，伝統芸能の活発化につながっている。

このような多様な影響が地域にもたらされる NHK 大河ドラマは，地域振興としての機能を有するようになったのである。

国策として地方創成が推進される現代社会において，半世紀の歴史を有する NHK 大河ドラマは，社会情勢の時宜に適った主人公と舞台地の選定が重要である。このことは，視聴率を向上させ，舞台地となった自治体の誘客促進につながり，地域振興に寄与するものといえる。